

令和 6 年度東海大豆現地検討会 東海産大豆を増やすために

～生産者と実需者をつなぐ～ 国産大豆需要拡大に向けて



令和 6 年 11 月 20 日

株式会社あいち研醸社 早川欽一

1. あいち研醸社 紹介



「できたての生ゆばを食卓へ」
大豆専門商社あいち研醸社が製造する
厳選した国産大豆の生ゆばをどうぞ。
いつでもお好きな時に食べられる
冷凍食品でお届けします。



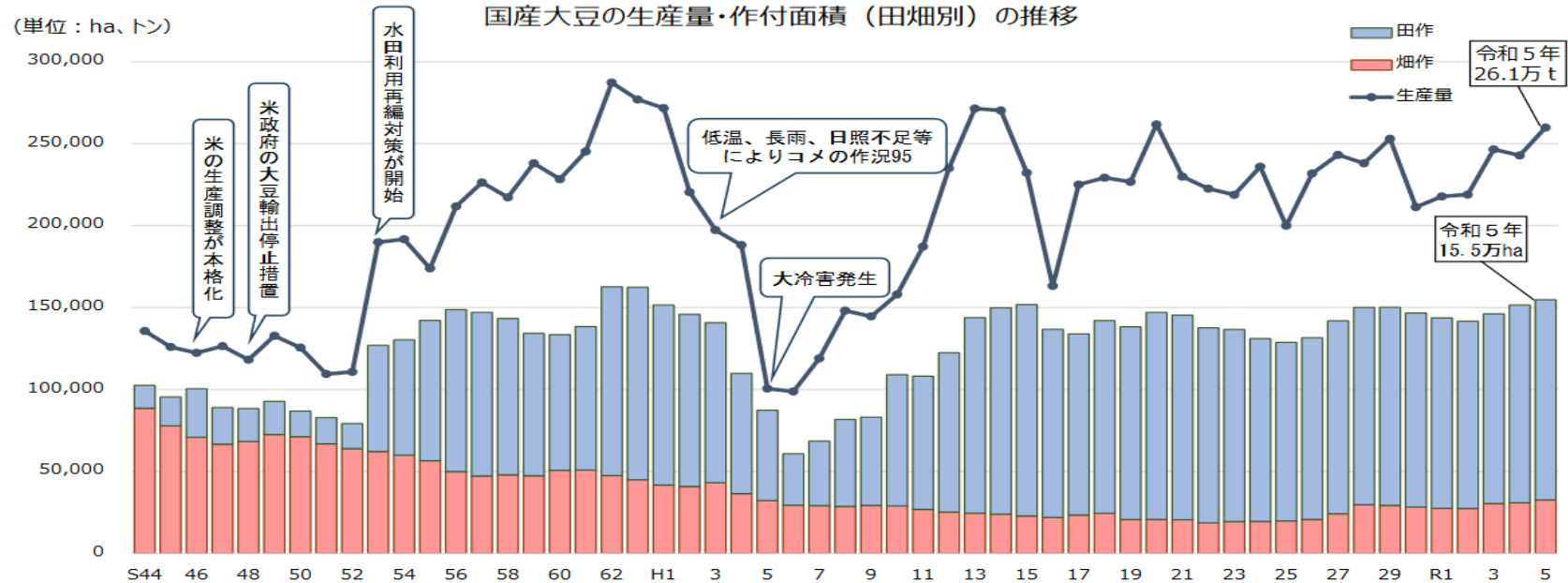
* すべての商品は消泡剤無添加です



2. 近年の大豆生産振返り

7-1 生産量・作付面積の推移

- 昭和53年から開始された水田利用再編対策により、大豆等に重点を置いた転作が推進され、大豆の作付けが急拡大したが、平成5年の冷害により米の作況が著しい不良となり、米が不足したこと等から大豆の作付面積が一時的に減少、その後、米の需給状況等に応じ、作付面積は増減しつつ今日にいたる。
- 令和5年度大豆の生産量は、北海道及び九州において、生育期間がおおむね天候に恵まれ、着さや数が多かったため、前年比7%増の26万0,800tとなった。
- 令和5年産の作付面積については、全国的に増加し、前年比2%増の15万4,700haとなった。



資料：統計部「作物統計」
(昭和59年までの畑作面積は、田畑計から田作を除いた値)

近年の国産大豆の生産と需要振り返り

86 食品経済研究 第36号 2008年 3月

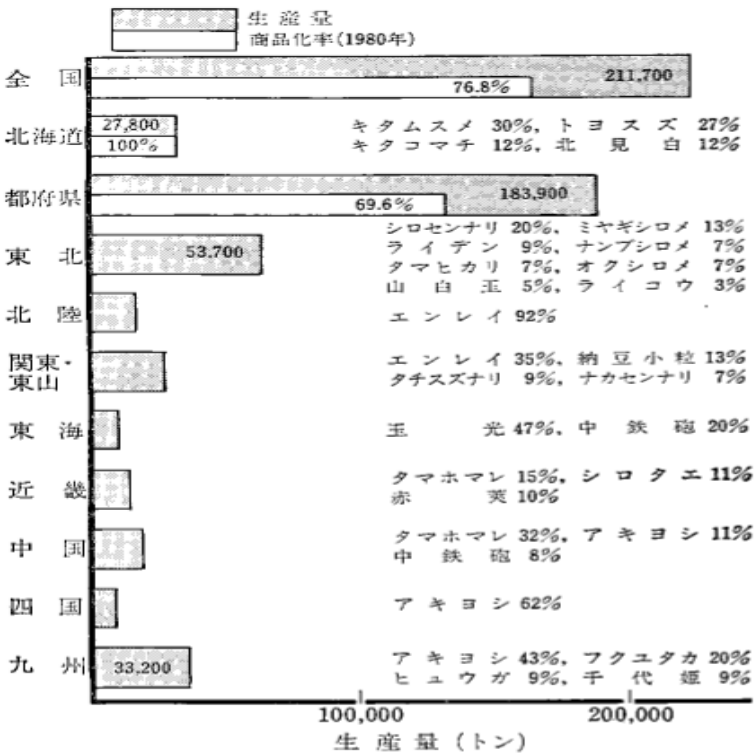


図 5 日本大豆生産量と主要品種の作付比率 (1981年, %)

昭和 56 年 (1981 年)

表 6 大豆品種別作付面積・シェアの推移

年産	品種別作付面積・シェア									
	1位		2位		3位		4位		5位	
	千ha	%	千ha	%	千ha	%	千ha	%	千ha	%
1992	フクユタカ	16.8	エンレイ	15.3	タチナガハ	10.5	タマホマレ	7.5	スズユタカ	7.3
1993	フクユタカ	13.1	エンレイ	15.0	タチナガハ	7.9	タマホマレ	6.2	スズユタカ	6.1
1994	フクユタカ	7.8	タマホマレ	5.3	エンレイ	5.1	スズユタカ	4.7	タチナガハ	4.4
1995	フクユタカ	9.5	エンレイ	13.9	タチナガハ	7.4	タマホマレ	5.5	スズユタカ	4.3
1996	フクユタカ	12.2	エンレイ	14.9	タチナガハ	9.9	タマホマレ	6.3	スズユタカ	5.2
1997	フクユタカ	13.5	エンレイ	16.3	タチナガハ	10.0	タマホマレ	5.8	スズユタカ	5.1
1998	フクユタカ	18.7	エンレイ	17.2	タチナガハ	13.8	タマホマレ	7.1	スズユタカ	6.4
1999	フクユタカ	20.0	エンレイ	18.5	タチナガハ	13.4	タマホマレ	8.7	スズユタカ	6.8
2000	フクユタカ	22.9	エンレイ	18.7	タチナガハ	15.8	タマホマレ	9.2	スズユタカ	6.4
2001	フクユタカ	29.4	エンレイ	20.4	タチナガハ	18.9	タマホマレ	10.1	スズユタカ	7.1
2002	フクユタカ	35.3	エンレイ	23.5	タチナガハ	19.4	タマホマレ	11.9	スズユタカ	8.6
2003	フクユタカ	34.0	エンレイ	22.4	タチナガハ	20.5	タマホマレ	12.4	スズユタカ	10.5
2004	フクユタカ	31.7	エンレイ	23.2	タチナガハ	16.5	タマホマレ	11.4	スズユタカ	9.3
2005	フクユタカ	31.0	エンレイ	23.1	タチナガハ	14.8	タマホマレ	10.2	スズユタカ	8.0

資料：農林水産省生産局農産振興課「大豆に関する資料」より作成。

令和 4 年 (1992 年) ～令和 17 年 (2005 年)



○ 品種別作付面積（上位10品種）

平成24年産				令和4年産			
品種	育成 年次	作付面積 (千ha)	作付 比率	品種	育成 年次	作付面積 (千ha)	作付 比率
フクユタカ	S55	33.5	26%	フクユタカ	S55	31.0	20%
エンレイ	S46	14.8	11%	ユキホマレ	H13	15.1	10%
ユキホマレ	H13	10.8	8%	里のほほえみ	H20	14.9	10%
リュウホウ	H7	10.1	8%	リュウホウ	H7	13.1	9%
タチナガハ	S61	8.7	7%	ユキホマレR	H21	7.9	5%
おおすず	H10	4.2	3%	ミヤギシロメ	S36	6.0	4%
ミヤギシロメ	S36	4.1	3%	ユキシズカ	H14	5.9	4%
サチユタカ	H13	3.3	3%	おおすず	H10	5.4	4%
スズマル	S63	3.0	2%	とよみずき	H24	4.6	3%
ユキシズカ	H14	3.0	2%	フクユタカA1号	H25	4.5	3%
上位10品種		95.5	73%	上位10品種計		108.3	71%
全国作付面積		131.1	100%	全国作付面積		151.6	100%

注：赤字は平成20年以降に開発された品種
穀物課調べ。

現在の作付け品種

区分	全 国				北海道				割合 (%)		
	作付面積		面積 ha	平均 収量 kg/ha	作付面積		面積 ha	平均 収量 kg/ha	作付 面積	収量	
	千 ha				千 ha						
昭和30	135,300		111		150,000	48,900	150		73,100	38.1	48.8
35	138,700		122		189,700	62,500	183	134	98,800	43.8	58.1
40	168,400		100		167,900	44,200	120	148	53,200	40.8	49.3
45	20,000		121		109,000	42,800	155	148	67,700	48.7	62.1
50	78,300	20,998	118	130	88,400	48,700	134	158	82,400	81.2	70.8
55	55,900	9,848	100	130	58,000	29,900	128	189	37,800	53.5	67.1
60	61,200	14,255	158	137	87,000	37,700	202	189	78,200	81.8	78.7
平成	68,700	20,800	159	150	108,200	39,900	208	189	82,200	59.8	77.5
2	68,300	20,800	178	154	117,900	40,400	228	193	98,100	80.9	81.5
3	58,200	18,100	159	154	89,200	32,200	219	200	70,400	57.3	78.9
4	50,800	13,700	135	157	68,800	29,800	188	204	49,000	58.3	71.4
5	52,600	12,800	87	161	45,500	31,000	100	204	33,000	62.7	72.5
6	52,500	11,800	171	168	90,000	35,100	218	203	75,700	68.9	84.1
7	51,200	12,100	183	165	93,800	34,000	229	204	78,000	88.4	83.2
8	48,700	12,900	178	160	78,100	31,800	198	207	62,000	84.9	79.4
9	49,000	12,800	178	164	72,100	32,700	175	205	57,200	88.7	79.3
10	48,700	13,100	178	164	77,800	32,800	184	194	68,000	88.0	85.1
11	45,400	12,700	178	168	80,800	30,700	222	193	68,200	87.8	84.7
12	43,800	10,800	202	177	88,200	30,000	253	205	75,800	88.8	85.9
13	45,700	9,990	155	179	70,800	32,900	181	215	59,500	72.0	84.0
14	42,000	8,940	157	179	65,900	29,800	182	208	54,200	71.0	82.2
15	42,000	9,250	140	174	58,800	30,800	184	199	50,100	72.9	85.2
16	42,800	10,200	212	189	90,500	31,900	258	195	82,200	74.9	90.9
17	38,200	9,480	208	174	78,900	28,200	247	210	69,800	73.8	88.2
18	32,200	7,210	198	180	63,900	22,800	248	217	58,000	70.8	87.8
19	32,700	7,240	201	184	65,800	21,800	244	222	58,100	72.8	88.8
20	32,100	8,880	218	183	69,200	23,400	282	220	61,200	72.9	88.5
21	31,700	8,700	187	195	53,800	23,500	198	225	48,500	74.1	88.1
22	30,700	8,080	179	197	54,900	23,200	210	229	48,700	75.8	88.7
23	30,800	5,780	198	199	60,000	21,800	227	241	54,000	71.8	90.0
24	30,700	5,290	222	198	68,200	24,400	258	225	62,000	79.5	92.4
25	32,300	5,140	211	198	68,000	26,200	243	227	63,700	81.1	93.7
26	32,000	4,800	240	201	78,800	28,200	274	228	72,100	82.2	93.9
27	27,300	4,040	233	205	63,700	21,900	272	240	58,500	80.2	93.4
28	21,300	3,350	138	208	29,500	18,200	187	242	27,100	78.1	91.9
29	22,700	3,240	225	208	55,400	17,900	278	242	48,800	78.9	93.3
30	23,700	3,430	178	219	42,100	19,100	205	255	39,200	80.8	93.1
令和	25,500	3,540	232	218	59,100	29,900	285	250	55,400	82.0	93.7
2	28,800	3,720	195	218	51,900	22,100	1,820	252	48,800	83.1	93.8
3	23,300	3,400	181	215	42,200	19,000	208	247	39,100	81.5	92.7
4	23,200	3,380	181	204	42,100	19,100	208	234	39,200	82.3	93.3

資料：農林水産省「作物統計」

注1) 「平均収量」は「平均10年間の収量は定算値である」。

注2) 「平均収量」は「昭和平成14年度以降は、平均収量(過去7年間の定算値のうち最高、最低を除いた5年間の平均値)」と「平成15年度以降は、平均収量(過去7年間の定算値のうち最高、最低を除いた5年間の平均値)」である。

3. 実需者が求めること

- ① フクユタカがなぜ市場で受け入れられたのか
- ② 生産量の安定
- ③ どうやって数量を増やすか
- ④ **物流、保管管理**

4. 国産大豆の付加価値の維持

5. 生産者と実需者の信頼関係の継続



